

1 事業概要と成果

事業目的

高齢がん患者支援に関する基本知識を習得したピアサポーターと地域の医療・福祉分野の専門職を対象として連携協力体制を構築し、高齢がん患者がよりよい在宅療養生活に移行できるよう支援する。

事業プログラム

6. 事例集の作成

事業を通して、今後の問題解決やよりよい対応の参考になる冊子を作成し、200カ所に配布。地域の識者から事例への考察や、取り組みへの第三者評価なども得て、充実した内容となった。今後、本書を参考として、他地域に同様の取り組みが広がることが期待できる。

5. 事例研究会の開催

医療・福祉の専門職等と高齢がん患者相談事例の検討を行い、よりよい連携協力体制の構築に向けて共に考えた。互いの立場や支援の内容を理解する機会となり、今後のよりよい連携と支援策への検討へつながった。アンケート結果は「参考になった」が100%であった。

3. 実践講習会の開催

高齢がん患者を支援する実際的なスキルを取得するための講習会を開催。講義後のロールプレイなどにも講師の指導が得られ、グループ討議も毎回活発に行われ、支援へのモチベーションが高まった。

1. 実行委員会

本事業課題の把握、整理、検討等のため、連携協力機関より医療福祉専門職の委員の参加を得た。ピアサポート団体と医療福祉の専門職が合議することで、バランスのよい事業内容となり、協力体制も促進された。

7.e ラーニング付き専用 web サイト

高齢がん患者サポートの継続学習や、病院・診療所等との連携と情報共有を図り、事業継続性を高めるツールとなった。3.の実践講習会に参加できなかったピアサポーターの自己学習につながり、より多くのピアサポーターが支援スキルを身に付けることができた。



8. ホットラインとサロン

電話での相談支援や少人数での集いを試行し、高齢がん患者が療養生活に関する情報と安心を得られる場としてサロンを開催した。高齢がん患者家族の生の声をじっくりと傾聴する機会ともなり、ピアサポーターのスキルアップと今後の支援策について参考になる情報が得られた。

4. 「あんしん」在宅フォーラム&ウォークの開催

高齢がん患者が住み慣れた地域で安心して療養できる支援の必要性を繁華街のウォークなどで広く訴求した。在宅医や訪問看護ステーションなどとの新しいネットワークの構築により、協力者も増え、メディアへのアピール力も高かった。

2. 連携相談支援モデルの構築

がん診療連携拠点病院の相談支援部門などと連携して院内ピアサポートを実施し、支援の必要な患者の相互紹介などを通じて、今後の相談支援連携体制モデルの構築へつなげることができた。今後の支援テキストともなる対応事例の開発ができた。



2 連携団体の本事業における役割

高齢がん患者・家族が十分な相談支援のもとに、必要なサービスを適切に受けられ、安心して在宅療養生活に移行できるように、連携団体と共に事例研究会や協働相談支援の実施、相談・連携の事例集作成などの各種協働モデルワークを実施し、地域の医療福祉職とピアサポーターによる地域連携体制の基盤構築に取り組んだ。

連携団体

- NPO法人愛知がんネットワーク <http://www.aichi-cancernetwork.com/>
 メディカルスタッフの情報交換と情報共有を行うなかで、がん診療の適正化と均てん化の推進を目指す。
- 地域緩和ケアネットワーク
 緩和ケアに関わる地域の人々が集い、連携や緩和ケアについて考えることで、患者・家族の生活を守る実践的ネットワーク構築を目指す。
- 東海ターミナルケア研究会
 尊厳を維持して終末を迎えられる医療や介護・福祉のあり方の普及を目指して、リビング・ウィルの普及推進、在宅ケアの情報提供などを行う。
- NPO法人健康情報処理センターあいち（愛知県医師会関連団体） <http://npo-aichimed.or.jp/>
 健診事務処理事業、マンパワー確保事業、健康食品等の倫理審査委員会などを通して、県民の健康保持増進への寄与を目指す。

